

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和7年7月29日
NO.9 文責 河村

野生動物のくらしと人とのかかわりについて学習しました！

7月15日（火）に、動物生態学専門の浅利裕伸先生（帯広畜産大学）をお招きし、「野生動物のくらしと人とのかかわり」のお話（3年生対象）をしていただきました。

普段、機関庫の川の学習を学んでいる子どもたちも、川周辺の自然環境学習は初めてです。

浅利先生は、授業の第一声で「みんなが知っている野生動物の名前をあげてみよう」と質問すると、様々な動物の名前が…。



その中から、浅利先生は、「こうもり」について詳しくお話をしてくれました。「こうもり」は、日本に35種類、そのうち北海道に20種類生息し、洞窟や建物、木の隙間をすみかにしていることや生態など教えていただき、みんなはそれらのお話に興味津々です。

また、ほとんどの野生動物は森に棲み、その森にどんな動物が棲んでいるか調べる方法（足跡や歩き方、食べ跡、うんちなど）も紹介していただきました。

さらにお話の後半には、外来生物についての話題も…。例えば、アライグマは、ペット等で飼われることが多く、水辺（川や水路）が大好き、生き物や果物など何でも食べ、様々な病気をもっている動物…。

そんなアライグマが外来生物として、他の動物に悪影響を及ぼし生態系を壊してしまう恐れがあるというお話もしていただきました。

外での活動では、校舎裏の林で、きつねとリスに関するアクティビティを行いました。2つのグループに分かれ、リスを探す『きつねグループ』、きつねに見つからないようにする『リスグループ』のそれぞれで林の中を散策します。写真や実物など、頭でしっかり学び、最終的には、体を動かして楽しむことができました。

機関庫の川周辺の環境にも視野を広げた3年生の子どもたちにとって、今後のさらなる学習の深まりのきっかけとなるとても貴重な時間となりました。



～子どもたちの振り返りより～

- ・豊成小学校の近くには、野生動物がたくさんいることを初めて知りました。
- ・野生動物を見かけることができれば、遠くから優しく見守って観察したいです。